

ネギアザミウマ *Onion thrips* (*Thrips tabaci*)



寄生密度が高く被害大



ネギアザミウマによる食害痕

【見分け方】

成虫・幼虫は葉の表層をなめたり、汁を吸ったりして葉の組織を傷つけるため、被害部は点状～糸状に白くなり、多発すると葉全体が白くなって生育が衰える。また幼苗では枯死することもある。

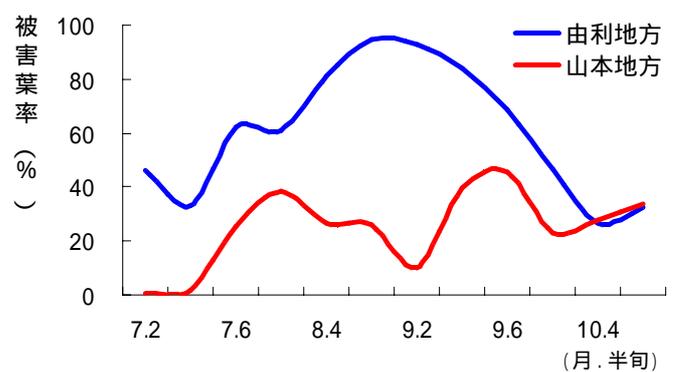
【発生生態】

成虫は長さ1mm前後、全体が淡黄～淡褐色で翅がある。幼虫は体長0.3mm前後で成虫と似た形をしているが、翅がないため区別できる。

主に成虫態でネギの根ぎわや草むらで越冬する。一頭の雌は100粒前後の卵を葉の組織内に産みつける。卵から成虫になる日数は、条件が良ければ3週間程度である。

小さい虫なので、肉眼ではなかなか見つけるのが容易ではないが、芯葉や葉の折れ曲がった部分など、葉と葉が密着したところを注意してみると群生しているのが見られる。

被害は夏場に多く、発生量は高温・小雨の年に多い傾向がある。



ネギアザミウマの発生推移